

臨床のあと一歩を引き出すために必要な評価・アプローチ！！

構音障害の評価は、1音の評価だけでは不十分です。誤り音がどのような構音運動パターンで起こっているのかを把握しなければなりません。

患者さんが発せられる言葉をいかに正確に分析できているか……

患者さんの発話からどんな問題を抽出するのか……

その問題をどうやって解決していくのか……

「音声学」×「音響学」×「運動学」の視点を掛け合わせる事で、より正確な評価とアプローチみ導き出すことができます。

このセミナーでは、STの「聴く力」をレベルアップし、患者さんの「発音」から「運動」を予測して、アプローチにつなげる力『臨床力』を高めます。

一つの歪み音であっても、それを引き起こしている構音運動の原因は多岐にわたります。

どの音が誤っているかの評価ももちろん重要ですが、誤った音がどのような構音運動をした結果、起きているのかを評価しアプローチすることで、より患者さんの構音は綺麗になります。

発音の誤りは、どのような構音運動パターンがあるのか？

それに対しどのようなアプローチを行うのが良いのか？

これらを実現することで「患者さんのあと一歩」を引き出すことに繋がります。

あと一歩で構音が綺麗になる……。こんな思いを抱きながらリハビリをしている方、一緒に『聴く力』を鍛える練習をしていきましょう！

『聴く』練習から、『運動パターン』の弁別練習、『アプローチ』の繋げ方まで、じっくり構音障害について学ぶ2日間になっています。

これまでに行ってきた three-s の構音障害セミナー内容に基礎内容を追加し、より細かく考えていきます。

皆様のご参加お待ちしております。

【内容】

1日目 基礎編：分析力を高める

1. 基礎を振り返る

- (1) 能動構音器官と受動構音器官
- (2) 音の生成と舌の運動

2. 音声学×音響学×運動学を臨床に応用する

- (1) なぜ、音声学、音響学、運動学が必要なのか

- (2) STの仕事は言語療法でHOPEを叶えること
- (3) 舌の癖にはパターンがある
 - ・視診のディスカッション（動画）
 - ・Let's Try! 舌の脱力
- (4) 音素の特徴を頭に入れる？

3. 聴く力～音素を評価する～※正常のパターン

- (1) 舌の癖を見極める
- (2) 目の前の現象を評価する
- (3) 音の粒は音素によってできている
- (4) 歪みから舌の運動を予測する*正常の発音（短文）
- (5) とにかく聴いてイメージ！

4. モデルケースを見てみよう

- (1) 構音評価
 - ・音声記号で表す

2日目 実践編：正常と異常とは

1. 構音障害のアプローチの流れ

- (1) 音声学の流れ
- (2) 何がなぜ悪いのか
- (3) 評価をアプローチに活かす

2. 聴く力～音素を評価する～※異常のあるパターン

- (1) 舌の癖を見極める
- (2) 目の前の現象を評価する
- (3) 音の粒は音素によってできている
- (4) 歪みから舌の運動を予測する
- (5) とにかく聴いてイメージ！

3. 評価から生まれるアプローチ

- (1) HOPEは“発音が良くなること”
- (2) まずは癖がない状態に！
- (3) 舌の筋力と感覚を大切にす
- (4) できないことを練習する
- (5) 正しい発音方法を再学習する？

4. モデルケースを見てみよう！

- (1) 構音評価

- ・ 何の音が苦手か
- ・ 苦手な構音動作は何か

(2) 問題点の抽出

- ・ 評価から予測できる問題点を考える

(3) アプローチ方法を考える

- ・ どのようなアプローチをするか
- ・ 触るアプローチと触らないアプローチ

[セミナー講師]

言語聴覚士

林 桃子 先生

遠隔言語療法のパイオニア

病院勤務を経て、現在は機能性構音障害や吃音の方達を対象に Skype を使用した遠隔言語療法を行う。その他、言語療法に関するコラム連載、通信教材の執筆、専門学校の特任講師としても活動中。